

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社 小春日和		
事業所名	グループホーム 小春日和		
所在地	亀山市南野町12番13号		
自己評価作成日	平成23年 1月18日	評価結果市町提出日	平成23年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2490400013&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 3 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街で住民の方々が温かく気さくに入って来て下さり、季節の野菜を頂いたり、散歩支援・買い物支援時にも利用者との声掛け・交流が頂けたり、近所の子供も学校の休み日(夏休み等)に気軽に庭で遊んだり、利用者とも笑顔のおしゃべりも頂ける、子達の声もある地区である。建物は既存建物をリフォームした物で広さには難を感じるグループホームで有るが、それが最高のリハビリホームと生きている。行き届いた手摺の設置・歩行訓練に最良の幅の階段・何処を取っても「動けるかも」と思える空間、その中で密な職員の見守りに車椅子を捨てて主体的・自立してリハビリ歩行生活を楽しまれている。又、個別のADL能力や趣味を生かした活動発揮も、肌の温もりを感じる中で各々が主体的に楽しみつつ参加、発見が有り、利用者同士の関わりも微笑ましく、名実共に小春日和グループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「傾聴し、受容し、尊厳の念と節度ある支援」の理念どおり、利用者をサポートする介護経験が豊富な介護支援専門員との意気がピッタリ合っており、家族的な雰囲気の中優しく丁寧に接している。2階への階段は安全に配慮された幅と手すりにより、歩行リハビリに活用され車椅子生活から自立歩行に改善される等、さまざまな自立の為の支援がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個々人の願い・思いを傾聴し、受容し、尊敬の念と節度を持って接し、その人の望んでいる自立支援を行う事を理念として掲げ、その願いに寄り添う介護実現へとカンファレンス会議を持って共有し、実践している。	普段、一人ひとりの思い、行動を傾聴、観察している。それを毎月1回、職員とカンファレンス会議で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近くのコンビニへの買い物時、明るい挨拶と語らいに寄り、近隣の方が季節の野菜を持って来て下さったり、地区のコミュニティ文化祭に利用者が作品を出展したり、地域の祭りの時には笑顔の交流もしている。	コミュニティ文化祭に利用者の作品を出展したり、学校帰りに子供達が時々寄ってくれたりしている。また、無断で外出した利用者を送ってくれるなど、見守りも地域の方々の協力を得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回「小春日和スナップ」を自治会長・民生委員を介して渡し、認知症の人の理解になればと思っている。又、地区の祭りの神輿の休憩場所に提供し、身近に接しての理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意向に添った話し合いが出来る様に「小春日和スナップ」のレジメを配布したり、アルバム等を用意して有意義な会議を行っている。	2ヶ月に1回、市担当者、自治会長等が出席し、連絡、意見・要望等を聞き相談検討している。今後も事業所が益々地域の一員となる為、続けていく方向でいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市相当者は月1回は施設へ来られて、話合ったり市回報に施設紹介下さったり、包括支援センターとの情報交換・指導を頂き、施設パンフレットを置かせて頂いたりしている。	生活保護課、生活相談員は月1回事業所へ来てくれる。運営推進会議には市担当者が来ており、その時には相談、情報交換報告をしている。	運営推進会議には市町担当者の出席はあるが、更に事業の運営や利用者に関する相談・情報交換等、積極的に協力・協働関係を築かれることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクを恐れず玄関等の施錠はしないで、積極的に出掛けられる事を勧めている。危険性は常に考えられるが、常に肌の温もりを感じる温かい距離しかない当施設の強みで、生き生きとした自由行動が保障されている。	玄関、部屋、窓等は施錠せず常に見守りに徹し、リスクを恐れず、カンファレンス会議でケアの実践を常に検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止キャンペーンの下敷きを全職員に配布し、話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業所・成年後見制度については、現時点では必要性がないので話し合っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を丁寧に読み説明して、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3～4日に1回は面会に来られる御家族様もおられ、共にお茶・食事をして頂きつつ、気さくな語りの中で吸い上げた意見や利用者の意見を反映した生活(レク・行事等)に心掛けている。	意見箱は設置してあるがあまり投函されないため、家族が面会に来られた時にお茶や食事を共にする等時間を頂き、意見・要望等を聞いている。出された意見、要望等はその都度受入れ反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改まった席は設けていないが業務を通し、又折り合る毎に意見・提案を聴いている。	改善提案制度をもうけ、いい提案があれば報奨制度も取り入れている。職員の業務軽減と浴室に入れない利用者に入浴リフトを職員の提案で設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を世間並み以上にすることに心掛けている。定着率高い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自、仕事を通してより良いケアを考え実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの知識・技術・経験が業務遂行する中で伝授されている。又地域の研修会には極力参加して、グループミーティングして質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設を利用前に、幾度か本人の利用されている施設(病院・家庭)へ伺い、面談・思い・願いを傾聴し、計画ニーズに反映すると共に来所して頂き、心理的負担を掛けない入所に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設を利用前に、幾度か本人の利用されている施設(病院・家庭)へ伺いアセスをさせて頂き、そこで得た生活課題を反映した計画を説明し、又入所前来て頂いたり家庭を伺い、話し合い・確認して頂きわかり易い生きた支援に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族面談に寄り思い・願い・状態・生活歴史等を、十分傾聴したアセスを元にした暫定計画を、入所前に説明・話し合い、より良いサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念が「傾聴し受容し尊敬の念を持って自立支援を行う」事を旨としているので、主体性の尊重・自己決定の尊重支援の喜びを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3～4日に1回は面会に来られる御家族様もおられ 共にお茶・食事をして頂きつつ、気さくな語りの中で吸い上げた意見や利用者の意見を反映した生活を、又、余り面会に来られない家庭へは近況報告の手紙を送らせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問寄り(家族・本人)面談アセス時、一人一人の暮らし振りを把握し、尊敬し日々の生活(行事)の中でさりげなく生かす支援をしている。	近くの神社へ行けばその神社の事が詳しい利用者が説明したり、以前食事(うどん店、寿司屋等)に行っていた店等、人それぞれの思いの場所へ全員で行き支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人症状を異にする仲間。ふとした事が相手を傷付ける事は有るので、必ず職員が利用者の狭間に入り、円滑に仲良しの輪が図れる様 仲立ち支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	已む無く当施設を退所(医療支援)される方の次の施設へのアドバイスをさせて頂いたり、その施設へ伺い本人・家族との語らい、友好に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当施設理念で有る「傾聴し受容し尊敬の念を持って節度有る自立支援をする」事を、全職員がカンファで深めつつ努めている。	毎月職員が一人ひとりに希望を聞いたり、あるいは行動・会話の中で把握し、それを元にカンファレンス資料を作り、共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規に当施設利用時にアセスメントシートに記録、入所前カンファ会議で共有し、日々のサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当施設理念を持って日々の生活の関わり(普通の生活・穏やかな安全な生活)の中で心身状態変化・残存機能変化等肌目細やかに接し、報・連・相に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の面会時に思い・願いを聞くと共に、全職員(カンファ原資料・モニタリング原資料)記入提出、その「まとめ資料」を元にカンファ会議を持ち、皆の意見やアイデアを反映した計画を作成している。	本人から把握したカンファレンス資料、家族との面会時の意向、意見等を取り入れ会議にて作成している。3ヶ月に一回モニタリングを行い、作り上げた計画書は家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の職員参加計画なので実践・工夫・モニタリングには熱意を持って「原モニタリング」記入されている。又、日々の気づき等記録だけでなく都度報・連・相でミーティングして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の希望に寄る外出・ドライブ・好きなお菓子の買い出し・医療機関への受診等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニへの買い物、近くの散髪屋へ行ったり、オカリナボランティアに毎月来所して頂いたり楽しんで頂いている。地区のコミュニティの催しを散歩かたがた見学して楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医及び以前からの掛かり付け医へ、全員何らかの治療の為受診している。従って定期的に検査受診と記録を取り、適切な医療受診支援している。	定期的にかかりつけ医に受診支援している。緊急時(夜間等)にも協力医療機関(かかりつけ医)の往診支援体制が築かれており、受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職員は居ないので、日常の関わりの中で体調変化時は、協力医及び掛かり付け医へ電話・受診で適切な健康管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はその医療機関との情報を共有し、連携を取り、足を運び、安心支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家庭や医療機関と情報を共有し、出来る限りの支援を旨としている。過去(2年前)終末期を当施設でと願われ、過ごされた方の経験がある。状況に応じては家族や利用者の為に果たせる役割の有る事が確認されている。	終末期を希望される家族には、事業所として出来る事を条件として受け入れている。終末期の方針は事業所として作成してないが今後、作成予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、現時点の利用者の疾病・治療とその進行悪化症状・薬剤等はカンファレンス会議で共通理解を図っている。少しでも不安を感じる時は協力医・掛かり付け医への電話・受診をし、手遅れのない支援をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的火災・防災の避難訓練は実施している。自治会・近隣者への声掛けには心良い協力を頂いている。又、火災報知器の設置も検討中である。	火災訓練は年2回実施している。幸いにも市消防署が2分位のところにあるが、現在スプリンクラーの設置を検討している。	火災から利用者の命を守るには第一にスプリンクラーの設置が必要であり、それに伴い火災報知機の取り付けも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に基づき関わりの中でプライバシーの侵害にならない様に配慮し、個人情報の取り扱いには充分注意している。又、人生の先輩者として生きて来られた、大切なプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮している。	トイレ誘導等は変語にして(トイレはエチケットタイム等)職員で声かけし、プライバシーに係る事は大きな声で言わず、尊厳をそこなわないように言葉かけにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	和やかに話せる雰囲気、職員の明るい楽しい笑顔に寄り傾聴し、受容し、尊敬の念を持って、節度有る自立支援で有る当施設理念実現と全職員心掛け、その関わり支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向に沿う介護、一人ひとりの暮らしを尊重する事が、その人の暮らしを支えるものと考え、自主性を重んじた支援に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人を尊重した身だしなみ・おしゃれは、1日の生活リズムをつくる為にも、起床時や外出時・入浴更衣時必要と考え、主体性を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食自炊、昼・夕食配食、マンネリ化防止と季節感や食生活の充実の為に、自家栽培の野菜や季節料理を適宜取り入れ楽しんでいる。利用者は準備や後片付けに、それぞれの能力に応じた参加をしている。	食事は朝、昼、夜、配食であるが管理者自ら試食をし一番美味しかったセンターを選定し、ごはんや汁物は事業所でまかなっている。また、月2回は季節感のあるお楽しみメニュー、年3回～4回は外食に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下に、栄養摂取や水分確保に配慮し、楽しみつつ美味しく摂取される様、その方に応じた盛り付け等工夫支援している。又、その状況の記録把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来ていないと肺炎等の重篤な疾患に繋がる危険が有るので、三食後は残歯はブラッシングを、義歯は洗浄と歯茎のマッサージと嗽を能力に応じて行う支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録パターンに応じ、個別に持てる残存能力を補う自立排泄支援をしている。	おむつは全員使用しているが、排泄パターンを記録しトイレ誘導を行い、「排泄はトイレで」を意識して支援している。夜間はポータブルトイレを使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録より、便秘気味の体質者も自然便通を良くするヨーグルト・牛乳・食物繊維の多い物・汁物等に配慮支援を継続している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別入浴を基本にし、週2回の入浴とシャワー浴の併用で身体の清潔・爽快感を味わっている。	入浴日は週2回(月、金)午後からと決めてあるが、希望があればいつでも可能である。夏はシャワーも取り入れ、又、リフト取り付けにより全員が浴槽に入っている。今は入浴を拒否される利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠支援・自ら休みたい時に休む休息支援は、メリハリ有る生活・心身の健康保持と心得、個別的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・薬剤情報は責任者が個別保管・管理の元、間違えない様毎日個別ケースで徹底支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個別のADL能力や趣味を生かした行動発揮する機会を設け、それに参加する役割や楽しみ事を発見する支援、生活暦行事等に於いても個々人がより楽しめる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭の草取り・近隣へ散歩・コンビニへの買い物支援は無論、紅葉ドライブ・外食等の支援をしている。	庭での草取り、疲れたらウッドデッキで休憩したり、木製のブランコでゆらり、ゆらりとしている。また散歩、四季折々のドライブ、外食へと出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数では有るが、近くのコンビニへ行きたい時に好きなお菓子・飲み物を買に行く支援、主体的興味を示さない利用者の為、近くのドライブインへドライブして好きな物を注文して食したり、店内見学・買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少数ではあるが電話の取次ぎ・手紙・年賀状等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建て物をリフォームしたもので、共用空間の広さや採光的にやや難点は有るが、季節感や馴染みのものを掲示する事で補っている。	玄関は木製の階段、前には木製のブランコ、台所は対面になっており家庭的な雰囲気が感じられ、壁には管理者の弟が描いた利用者全員の似顔絵のスケッチ画が掛けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には難有るが、気の合った利用者同士居室ベットの掛けて喋られたり、思い思いのソファへ移動して、利用者同士の触れ合いは密である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2階6室、1階3室有り、全体としてプライバシーの有る居室空間で有る。馴染みの物が飾られ、個室としては快適に過ごせる工夫がなされている。	ベッド、クローゼットの設備があり、嗜好品・趣味の品・写真など掲示している。小窓からは明るい日差しが差し込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が家庭的空間・家庭より安全なりハビリ空間・主体的なりハビリ生活、階段も最高のリハビリ機器として密な支援をしている。		